

節水から得られること

学習院女子中等科

三年中組

竹林

瑞姫

私たちはどんな時に水を使うのだろうか。

飲料水として、はもろろんのこと、炊事、洗濯

ヤシヤワイなど、生活の一部として染みついて

ている行動にも水はたくさん使われている。

しかし、そのように毎日当たり前のように

使っているからこそ、水は有限の資源であり、

大切に使用していかねばいけないという意

識が薄れているのではないかと思う。必要だ

時に蛇口を捻ればすぐに出てくる水道水。生

活に欠かせない水という資源をどのようにし

て守っていかねばいけないだろうか。

日本の年間降水量は、世界平均の1.6倍

もあるが、一人当たりの量で計算すると世界

平均の約四分の一ほどである。また、降った

雨は蒸発するか、海に流れこんでしまうため、

実際に使える水の量は、降水量のうち約20

パーセントしかたないのだという。

しかし、それに対して、日本人一人が家庭
 で一日に使用する水の量は、約220リット
 ルから約230リットルになるといわれてい
 る。これは、世界のなかでも多く、日本人一
 人当たりの生活用水の使用量は、オーストラ
 リアに次ぐ世界第二位なのだという。また、
 家庭以外で使っている水の量も含めると、一
 人一日当たり約284リットルも使用してい
 るのだそうだ。
 私はこのことを知り、とても驚いた。日本
 は雨が多々降り、森林も豊富にあり、多々の
 水があるのではないかと思っていたからだ。
 そして、私たちは水を必要以上に使っている
 ことに気づいた。というのも、日本の水の使
 用量が、世界保健機関が定めた「一日に最低
 限必要な水の量」である50リットルの四倍以
 上であるからだ。
 しかし、世界には一日50リットルという限
 界域以下の水しか使えない人が六億人以上い
 るのだという。日本の人口約一億二千万六
 百五十

人が一日にそれぞれ約220リットルの水を使っているのに対し、その約五倍の六億人以上が、それぞれ四分の一以下の50リットルしか水を使えていないといわれています。自然と節水に対する意識が芽生えてくる。私たち節水をしても、たくすんの水を必要とする人々のもとへ直接水が届けられるわけではないが、節水をする事で得られる利点がある。それは、環境の負荷を低減することができる。

るという点である。水が私たちのもとへ届くには、電気が使われる。湖や川の水を引いて浄化し、そこから水を送るためには機械が使われ、その機械を動かすには、電気を必要とするからだ。電気を節約すると、二酸化炭素の排出を削減することができる。また、水を節約することでも、二酸化炭素排出の削減につながる。環境問題の解決に少しでも導くことが出来るのではないか。

実際に水1トン節約することでも、0.5

4 キログラムの二酸化炭素を削減すること
 ができる。身近な例をあげると、歯磨きの際
 に水をコップに汲むことで、一か月間で約5
 リットルの水を節約し、約78グラムの二酸化
 炭素の排出を削減することができる。いつも
 の行動より少し意識することです。環境汚染が
 進むのを防ぐのである。
 二酸化炭素による環境問題に地球温暖化が
 ある。それにより、干ばつなど水不足が深
 刻化してしまおう。先に述べた通り、世界には
 生活に必要な最低限の量より少ない量の水で
 暮らしている人が約6億人いる。しかし、温
 暖化による干ばつ、水不足が解消されたら、
 より多くの人が必要な量の水を得ること
 ができるのではないかと考えた。
 貴重な資源である水を守るには、やはり一
 人一人が意識して節水を行うことが重要だ
 と感じた。生活のなかで少し意識して行動す
 るだけで多くの水を節約でき、二酸化炭素の排
 出削減にもつながる。一人の力で変わるも

のことはないかもきれない。しかし、個人として
ではなく、団体で行えば必ず結果につながる
はずだ。私たちが今行動すれば、環境問題の
早期解決に貢献でき、沢山の命も救うことが
できると思った。『節水』が言葉で言い表さ
なくても、生活の一部として行動できるよう
に実践していきたい。